

聖書:ルカの福音書12章35~48節

説教:人の子は思いがけない時に来ます

はじめに

私は学生時代からずっと、人は何を指して生きているのかを知りたくて捜し続けたのですが、納得のいく答えが見つからず悩んでいました。そんなある日、聖書に出会い、黙示録22章20節にこう書いてあるのを見つけたのです。「これらのことを証しする方が言われる。『しかり、わたしはすぐに来る。』アーメン。主イエスよ、来てください。」主が再び来られる日—これを再臨と呼んでいます—を指して生きる。なぜなら、そこに私たちの本当の希望があるから。このことばに出会って、私は初めて生きる意味を見つけた気がしました。

今日のところの40節にも、「人の子は、思いがけない時に来るのです」とあり、多くの人たちは、これは主の再臨のことだと考えています。その主をどのように待つのか。イエスはいくつかのたとえ話をしながら教えているようです。でもわからないことがたくさんある。イエスはなにを語るとされているのか。ともに考えてまいります。

1 いくつかの疑問

1) 主人が給仕する (37節)

ここを読んで疑問に思うことの中から、今朝は三つ挙げます。一つ目は37節です。忠実なしもべが目を覚まして主人の帰りを待っていた。そこまではよいとして、後半のことばはどうでしょうか。「まことに、あなたがたに言います。主人のほうか帯を締め、そのしもべたちを食卓に着かせ、そばに来て給仕してくれます。」

普通、主人が夜遅く帰って来たとしたらどうするでしょうか。寝ないで留守を守っていたしもべに、「遅くまでご苦労さん」とねぎらいのことばをかける。それがせいぜいでしょう。主人がしもべのために給仕するなど聞いたことがありません。ここを読んだ時、なにかの間違いかと戸惑いました。これはいったいどういうことか。

2) 決められた分を与える (42節)

二つ目は42節です。「では、主人によって、その家の召使いたちの上に任命され、食事時には彼らに決められた分を与える、忠実で賢い管理人とは、いったいだれでしょうか。」このなかの、「食事時には彼らに決められた分を与える」という表

現です。いかに忠実で賢いしもべであるかを示すひとつの具体例として、「食事時には彼らに決められた分を与える」と言っています。でも、普通はこんな言い方はしません。なにか不自然ではないですか。

3) ペテロの質問に答えたか

三つ目の疑問。前後しますが41節でペテロは、このたとえ話のしもべとは自分たちことか、それともすべての人のことなのか。疑問になって質問をします。ところがイエスは42節で、「忠実で賢い管理人とはいっただれでしょう。」と、まるで煙に巻くようにして直接答えません。肩すかしを食らった印象です。それはそれとして、イエスが問いかけているのですから、私たちも忠実で賢い管理人とはだれかを考えなくてははいけません。

2 人の子はいつ来るのか

1) これから

イエスが語ることばはまるで鍵のかかった宝の箱のように感じます鍵がないと開けられない。鍵は40節です。「あなたがたも用心していなさい。人の子は、思いがけない時に来るのです。」「思いがけない時」がどれだけ意外な時であるか、それを説明するためにわざわざ泥棒の話まで持ち出しています。その泥棒の話をしてから「用心しなさい」と言う。そんな順序ですから、私たちは思うわけです。「人の子が来るのは、この先の未来のことだ。」

2) すでに

そのとおりで、多くの人はそう説明しています。しかし納得いかないこいがある。先ほど挙げた三つの疑問です。どう考えたらよいか。

いま、人の子はまだ来ていないと決めつけましたが、既に来ているという可能性はないのでしょうか。というのは、弟子たちや人々の前で語っておられるのは誰ですか。イエス・キリストです。当たり前のことですが、人の子はすでに来ている。

問題は、弟子たちも含めて人々は「人の子」と呼ばれる方と、目の前に立っているイエスという男を同じ方とと思っているのか、それとも別人だと思っているのか、です。もし、同じ方であると気がついていたら、ペテロはこう言ったはずで

「主よ。あなたは私たちがずっと昔から待っていた人の子だったのですね。」

ところがペテロの関心はどこにあったか。「幸いなしもべと言われるように主人を待つ、それは弟子である自分たちなのことか、そうでないのか。」自分のことばかり気にして、人の子と呼ばれる方と、目の前のイエスとまったく結びついていない。

3 イエス・キリスト

1) しもべとなって給仕する主人

ではこの箇所を、既に来られたイエス・キリストのこととして読むとどうなるか。まず一つ目の疑問から。37節の、主人のほうで帯を締め、しもべたちのために給仕をするという話し。イエスは給仕をしたのかどうかですが、確かにルカ22章27節にあります。「食卓に着く人と給仕する者と、どちらが偉いでしょうか。食卓に着く人ではありませんか。しかし、わたしはあなたがたの間で、給仕する者のようにしています。」

ヨハネの福音書にも、イエスが腰にてぬぐいをまとい、弟子たちの足を洗って主人がしもべに仕える姿が描かれています。イエスが言われるとおりで

2) 食事時に分け与える管理人 (しもべ)

そうすると二つ目の疑問はどうなるか。42節の「食事時には彼らに決められた分を与える忠実で賢い管理人」とは、これもイエスのことだと考えられる。根拠はヨハネ6章51節です。「わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きています。そして、わたしが与えるパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。」

このいのちのパンをどのようにして私たちに分け与えたのですか。十字架で、ご自身のみからだを裂いて、与えてくださった。まさに聖餐式はそのことを示しているわけです。そうすると食事時とはなにか。毎日の三度の食事ことではなく、十字架の時のことではないですか。「主人によって、その家の召使いたちの上に任命され」ということばもわかりにくかったけれど、父なる神の御許から救いのご計画を成し遂げるために遣わされてきた、ことだと思えば納得できます。41節も主イエス・キリストのことを言っているのです。

先ほどの37節ではイエスがしもべに仕える主人として描かれていました。41節ではそれとは反対に、忠実で賢い管理人として描かれています。主人で

ありながらもべともなられる、両方の姿を語ってくださったことに気がつきます。

3) 忠実な賢い管理人

そうすると三つ目の疑問はどうなるか。イエスはペテロの質問に直接答えず、その代わり42節で「では、忠実な賢い管理人とは、だれでしょうか」と逆に質問しましたが、答えは明かです。ここに出て来るたとえ話は全部、イエスのことなのです。イエスは自分のことを「わたしはしもべに仕えて給仕するすばらしい主人です」とか、「わたしは主人から任命された忠実で賢い管理人です」というようなことは絶対に言いません。むしろご自分のことを隠そうとされます。でも、すべて隠してしまったら私たちは救い主がどのような方なのか、まったく手がかりがなくなるので、イエスとつながることができません。しかし、イエスは私たちの友になって、私たちとつながりたいと願っています。そこでどんな方法をとるかという、今日のように、あなたがたはこうしなければなりませんというような語り方をしながら、私たちに考えさせる。そんなふうにして、私たちが気がつくのを待っておられるのです。

4) 多く要求される

ところが私たちは罪によって知性が暗くなっていますから、なかなか気がつかない。そのまま47節を読んでしまう。「主人の思いを知りながら用意もせず、その思いどおりに働きもしなかつたしもべは、むちでひどく打たれます。」自分は神の思い通りに働いていないのでむちで打たれてしまうのではないか。読んで苦しくなってしまう。48節もそうです。「多く任された者は、さらに多く要求されます。」もっと神様のために働けと言われていくにつらくなる。

しかし、ここが全部イエスのことだとして読むなら、話はまったく違ってきます。思い通りに働かなかったならむちで打たれてしまうのは誰か。イエスです。多くまかされて多く要求されるのは誰か。これもイエスです。イエスは父なる神のみ思いをご存じで、父なる神がご計画されたとおりに働くのだと言っているのです。父なる神がに多くのことを任されているけれど、この方が持っているものをすべて要求されてもいる。その結果が十字架だったのです。

父なる神は、この方のいのちさえ要求します。おそろしい神だと思いますか。とんでもありません。なぜイエスはご自分のいのちを差し出すので

しょう。私たちが神に背いた結果、今私たちが見ているように、人が人を憎み、平気で人を殺し、嘘を振りまき、真実を覆い隠していく、そういう世界になってしまった。その罪のゆえに神である方が忠実なしもべの姿となって十字架に向かわれました。私たちがそう仕向けたのです。

5) 忠実なしもべの手本となられた

この箇所は、イエスご自身のことを語っているとやいました。では最後に確認します。私たちはこれを聞いてどうするか。イエスのことだから関係ない、とするのか。いいえ。二千年前、主は人の子として来られました。最初にも触れたように、私たちはいま再臨の主を待ち望んでいます。そうすると、ここは主ご自身のことを語りながら、私たちのことも両方語っていることにもなります。「あなたがたも用心しなさい。人の子は、思いがけない時に来るのです。」

今の時代、気候変動による異常気象、地震、疫病、そして戦争と立て続けに起きていくのを見ると、世の終わりが近づいているのではないか。人の子はもうすぐ来るのではないかと思う時があります。しかしそれはいつかはわかりません。主イエスが忠実なしもべとしてのお手本を見せてくださいました。どんな時代になろうとも、私たちは忍耐しつつこの方のあとをたどってまいりたいと願います。